

◆11番（たかおか知子君）＝登壇＝こんにちは。たかおか知子でございます。通告に従いまして、質問を行います。

皆さんは、芦屋にこういうものがあつたらいいのと思うことはないでしょうか。

日ごろ、お困りの市民の方が御相談くださるときに、気がついたことがありました。話の中で、「こうすればいいのに」というアドバイスもくださっているということです。

当局は、市民の方と楽しい会話でアイデアを引き出せる体制づくりがとれていると言えますでしょうか。市内には、すばらしい意見があふれていて、それを埋もれさせていてはもったいなく、ぜひ発掘していただきたいと感じております。

芦屋市には、良識のある善良な市民の方が多くいらっしゃいます。つまりは、その意見をうまく吸い上げることで、市の問題を最善の方法で解決させてくれることがあるはずです。

そこで、今回、「こんなの芦屋にあつたらいいな」という10個の案を1つの項目にまとめ、順次説明を加えて当局の見解を問います。

ただし、今からお伝えする案は、これまで当局がやってこられたことを全否定するものではなく、問題提起しながら、前向きによりよい解決策を求め、新たな提案をさせていただきたいという思いを込めてお伺いいたします。

1点目、防災行政無線を音で聞き分け、避難状況が判別できる方法を御提案します。

防災行政無線は、音声聞き取りにくく、何を放送しているのかよく聞こえないという声が多く聞こえてまいります。スピーカーからの音声以外にも災害情報を取得する手段が準備されてるとはいえ、市民の皆様がいち早く頼りにしている身近なアナウンスが、しっかりと伝わっていないということは問題であり、改善が必要ではないでしょうか。

そこで、警報レベルによって、音楽やサイレンなど、判別つきやすいものを決め、日ごろの防災訓練でも試し、子どもも音で理解できるような工夫があつてもよいと考えております。

2点目、災害時に対応できるための通信手段である緊急電話を御提案します。

携帯電話利用者がふえたことにより電話ボックスが減り、一方で、安心をつなぐまちなかの電話がなくなつてしまったとも言えます。

近年では、台風15号の被害対応として、千葉県内の公衆電話を無料化するなど、災害時に有効な通信手段として、公衆電話の重要性が改めて注目されています。

そこで、市内の公衆電話の設置状況をお伺いいたします。人が集まる場所や、隔離されそうな場所で、災害時にも対応可能な通信手段として、緊急電話の必要性を感じております。

3点目、防犯時の駆け込み場所づくりを御提案します。

当市の防犯対策として、「芦屋市子どもを守る110番の家・店」のプレートを活用されていますが、人けがなく、民家に入り込めないところでの逃げ込み場として、すぐに周りに知らせることができる仕掛けづくりも必要であります。

現在、防犯ブザー等を設置し、不審者から逃げる際の通報連絡場所のような抑止力になっているところは、市内にあるのでしょうか。

警報装置や防犯カメラ等を設置した特定の場所を明らかにし、まちの人が注目する防犯スポットがあることで、抑止力になると考えております。

続いては、犬の放し飼いやふんの放置の問題についての御提案です。

これまで当局は、道路上に放置されている犬のふんや放し飼いなどに関しては、市民マナー条例をつくり、ルールを守りましょうとマナー啓発活動を主にされてこられました。ところが、飼い犬のマナーの悪さでお困りの

方の声をいまだに多く耳にされることと存じます。きちんとマナーを守っている飼い主の方も、ふんを持ち帰っていないと間違われたり、周りの視線を気にし、かわりに後始末をするなど、迷惑しているとのことです。

そこで、少し視点を変え、マナーを守らない方は、なぜふんを持ち帰らないのか、なぜ放し飼いをするのか、その理由がわかれば新たな解決策も見えてくるのではないかと考えました。

ここで3つの案です。

4点目、犬の公衆トイレのようなふんを捨てる場所を御提案します。

犬の公衆トイレと呼び、実際にふんを捨てる場所として設置しているところもあるようです。落ち葉とおがくずなど、産業廃棄物と言われるものを利用してふんの堆肥化を図るバイオトイレで、燃えるごみが減らせ、CO₂の削減ができます。自然のサイクルで土に返し、花壇の土としてリサイクルできるよう、エコシステムを活用するようです。

そこで、犬のふんを捨てる場所をつくるのはどうでしょうか。

5点目、犬のふんポストを御提案します。

ペットの排せつ物用のごみ箱を置き、同時に回収袋も無料でとれるようにしている取り組みがあります。ヨーロッパなど、国を挙げて美化に力を入れているところでは、この対策により、ふんの放置が改善しているようです。

そこで、犬のふんポスト、すなわちふん専用のごみ箱を設置してはいかがでしょうか。

6点目、優秀な飼い主を証明するグッズを御提案します。

マナーの悪い方を啓発するばかりではなく、きちんとマナーを守られている方のことも注目して、優秀な方を証明できる方法をふやしていくのはどうでしょうか。マナー講習を受けられた方には、そのしるしとなるような、芦屋市独自で優秀な飼い主を象徴するものをお渡しするなど、マナーを守っている飼い主を証明するグッズを考案してみてもはいかがでしょうか。

7点目、市内全域の催し情報を集約アンド提供できるシステムを御提案します。各町内会や市内で行われている催しなどは、意外と知られていないことが多いようです。そういった市内全域のイベント情報を市民の皆様から提供していただき、集めた情報を一カ所で確認したいのです。開催日からイベントがわかるなど、条件に合わせて参加したいものを探すことができる一覧をホームページ内につくるなど、催し情報を一括して知ることができるものがあればよいと考えます。

8点目、「みんなの家」を御提案します。

家事や子育ては外の仕事と違い、休みなく毎日繰り返し続きます。たまに食事の支度など、休息日が欲しいと思うことはないでしょうか。そんな同じ気持ちを持った人が集まり、できる人ができるときに助け合える仕組みを持った「みんなの家」を考えました。

今ある施設を最大限に活用し、新たにワークシェアリングの場所として、利用方法を市民とともに考え、つくり出していくことはできないでしょうか。

例えば、旧精道幼稚園は、認定こども園として活用した後の使用は未定であると聞いております。時代が変わり、これまで培ってきた歴史をそのまま継続して、同じように運営していくことが難しいこともありますが、建物ごと壊し、手放すことは簡単です。そのような場所を、今後は地域が協働でつくり上げるみんなの公共施設として、市民が望む居場所を当局にバックアップしていただきたいのです。

9点目、職住近接を職員に促進する制度を御提案します。

先日、議員視察で訪れた静岡県湖西市では、職場と住居が近いという意味の「職住近接」をキャッチコピーにし、人口減少対策として、移住・定住の促進を重点的に行うための政策を幾つか実施されていました。

また、佐賀県の鳥栖市ではまちづくり推進協議会がつくられており、小学校区を単位とし、自治会や各種団体が連携し、地域のまちづくりについて地域課題の解決に取り組まれておりました。

湖西市も鳥栖市も市のアピールをする中で、職員が自主的であり、自信を持って住みやすさを勧めておられる

印象を受けました。中でも私が驚いたのは、職員の市内居住率が2割もいかない本市に比べ、湖西市は6割、鳥栖市では7割が市内に居住しており、職員が日ごろから地域の中に溶け込み、みずから各種団体に活躍されている方も多いことでした。

そこで、現在勤務している市外の職員の方も芦屋に移住しやすくなるように、当市の魅力を引き出すことを考えてみてはいかがでしょうか。防災の観点からも、行政が市民の皆様と協働のまちづくりを推奨するためにも、職住近接の促進を考えております。

10点目、「こんなのです課」というようなアイデアを引き出す課を御提案します。

当市には、「お困りです課」という課があり、ホームページには「皆さんの苦情・要望・ご意見をお伺いしています」とあります。名前のおおりに、お困り事を親切・丁寧・迅速をモットーに聞いてくれる窓口なのでしょう。確かに困っていることを言える窓口のサービスがあることはよい取り組みです。

しかし、一方で、お困りです課というネーミングが与える印象から、苦情を受け付け謝るといふ、暗いイメージが浮かびます。そもそも行政サービスにおいて、クレーム対応の考え方は正しいのでしょうか。なぜなら、窓口にお問い合わせくる市民の方は解決を求めたいと願われており、クレマーではないからです。職員もまた、悩み相談を一方的に聞くのが目的ではないはず。人は怒られているという先入観が入ることで、結果的に話を聞く前から構えてしまい、前向きに向き合うよりも、対立をつくってしまう悪循環になってしまわないでしょうか。

子育ての考え方の中でも、怒ると叱るは全く違うと言われております。怒るとは怒り手の感情を外に爆発させることであり、叱るとは相手によりよい方法を教示することです。つまり、似ているようで怒るはネガティブ、叱るはポジティブな色味があることがわかります。行政側が感情的に怒られていると受け取ってしまうことで、職員のメンタルももたなくなり、これでは信頼関係もつくれずに、後ろ向きになる一方です。ここがだめと言われるのではなく、こうすればよくなるというプラス思考な意見を出してもらい、建設的な話し合いができる関係性をつくり出すことはできないでしょうか。

それには、これまでの印象を払拭させるために、大きくイメージを変える必要があると考えます。

そこで、今回のテーマ、「こんな芦屋にあったらいいな」にちなんで、市民の皆様から親しまれ、よい案を提案したくなるようなプラスイメージを連想させるネーミングの窓口をつくり出すことは可能でしょうか。無作為抽出にたくさんのよい考えを発掘し、市民提案型の意見を求める場所になればよいと考えております。その中で、実際にアイデアが実現に結びついたときは、市長賞、各部門賞などをつくり、表彰します。そうすることで、市民の皆様のご意見が実現したことが形として見えるようになるのではないのでしょうか。

意見の対立を生むような仕組みは変え、調和をとりながら、一緒によいものを築き上げて達成させていく、そんなまちづくりを目指していくことこそ、市長が掲げられている市民が主役のまちづくりに生かされていくのではないのでしょうか。

以上、壇上からの質問といたします。

○副議長（寺前尊文君） 答弁を求めます。

いとう市長。

◎市長（いとうまい君） =登壇=たかおか知子議員の御質問にお答えをいたします。

初めに、防災行政無線で警戒レベルに応じてチャイムや音楽を使い分けることは、周知内容が複雑になるため難しいと考えておりますが、今年度、スピーカーの改良や増設に取り組んでおり、聞こえやすさの向上を図ってまいります。

災害時の通信手段は、固定電話や携帯電話より通信が優先される特設公衆電話を避難所15カ所に設置しており、昨年度新たに指定した避難所にも増設を検討しております。

避難場所以外では、公衆電話が停電時や災害時の回線混雑時でも優先的な通信が可能で、阪神・淡路大震災時にも有効でございました。

不審者から身を守るためには、遠ざかることが最も効果的であり、通報連絡場所は安全が確保できないことから、設置する考えはございませんが、防犯カメラのほか、避難経路が制限される芦屋川隧道及びあゆみ橋には非常通報装置を設置し、安全・安心なまちづくりに取り組んでいるところです。

犬のふんなどの処理は、飼い主の責務であることから、犬の公衆トイレの設置等は考えておりません。昨年度策定の第2次市民マナー条例推進計画に基づき、全ての飼い主の方にマナーを守っていただくよう各種の啓発に取り組んでいるところです。

市内の催し情報を集約し、提供できるシステムは、あしやNPOセンターが管理者をしている電子掲示板「ためまっぶ芦屋」がございますので、積極的に活用されるよう、広く周知を図ってまいります。

市立精道こども園の移転後の敷地は、現時点では、市立打出保育所の大規模改修等の代替施設としての活用を検討しておりますが、その後は施設の歴史的背景等も踏まえて判断してまいります。

職員の市内居住促進は、近隣市に比べ職員の市内居住率が低いのは、市域が狭いことなど本市の特性によるものです。

職員への市内居住を促進する取り組みを行う考えはございませんが、平成29年度より、入所5年目及び新任係長級職員を対象に、地域とのパートナーシップ研修を実施するなど、職員の地域活動への理解と参画協働を進めております。

「こんなあったらどうです課」は、お困りです課が市民の皆様からのお困り事や施策への提案などをお聞きし、適切な窓口を御案内しており、課名も浸透し、認知度も高いため、変更することは考えておりません。

お困りです課に寄せられた御意見・御要望は全て貴重な市民の皆様のお声であると捉えており、表彰は考えておりません。

以上でございます。

○副議長（寺前尊文君） たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） 答弁ありがとうございます。それでは幾つか御質問させていただきます。

1点目の防災行政無線についてですが、こちらは聞き取りにくいという御意見が多いです。行政としては、屋内の方が言われていることが多いですか、それとも屋外の方が言われていることが多いですか、その辺を調査されてますでしょうか、お答えください。

○副議長（寺前尊文君） 辻都市建設部長。

◎都市建設部長（辻正彦君） 防災無線は基本的に屋外におられる方を対象に鳴らしておりますが、聞こえにくいと言われてる方は屋内におられる方がほとんどです。

○副議長（寺前尊文君） たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） 先ほど屋外の方を対象にとおっしゃいました。ということは、屋内の方は聞こえて当然だと思っているけれども、実際は屋内の方に届くように、行政無線は鳴らしていないということでしょうか。

○副議長（寺前尊文君） 辻都市建設部長。

◎都市建設部長（辻正彦君） 鳴らしていないということではなくて、基本的には届くほうがいいというふうに思っております。

ただ、屋内向けにはいろんなツールを用意しておりますので、無線というのは、基本的に屋外におられる方に向けて情報を発信するものでございます。

○副議長（寺前尊文君） たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） 実際そのツールが伝わっていないから、屋内の方がスピーカーから聞こえないとおっしゃっているのではないのでしょうか。

要は、状況を判別する情報を伝えたいのであって、それが聞こえないということで不安になられてると思うんですが、その辺はいかがですか。

○副議長（寺前尊文君） 辻都市建設部長。

◎都市建設部長（辻正彦君） まず、無線が聞こえにくいというお声をたくさんいただいておりますので、今年度改良をしてみたいです。相当聞こえやすくなるというふうに確信をしております。

それと、もう一点、鳴ったのはわかったけれども、どういう内容だったかわからないという方は、本当にいろんなツールを用意しておりますので、そこで再度確認をしていただきたいというふうに思っております。

○副議長（寺前尊文君） たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） そうですね。伝えるということ、どういう状況かというのをわかっていただくことが大事だと思いますので、しっかりとそのツールのところ、スピーカーに頼らない部分というのを、今後もしっかり言っていきたいということです。

要は、私が今回提案させていただいたのは、野外にいる方であっても、聞いてすぐに判別できる方法が何かないかということでした。

例えば、「蛍の光」が鳴ったら閉店をイメージしてみたり、「夕焼け小焼け」を聞くと帰らないといけないというイメージしてみたり、例えば子どもが聞いても、これは今は逃げるサインだとかがわかる、そういったものを取り入れていただきたいという御提案でしたが、そのあたりは御検討されないということでしょうか。

○副議長（寺前尊文君） 辻都市建設部長。

◎都市建設部長（辻正彦君） 中でいろいろ議論をしましたけれども、いろんな問題点があるというふうに思っております。

1つは、たかおか議員に言っておりますように、通常のチャイムとサイレンとかを切りかえるタイミングです。それとあと、そのサイレンがどういうことを意味してるのかというのを周知することもまた、なかなか難しいというふうに思っております。

全てを否定しているわけではないので、今後、いろんなことは検証してみたいというふうに思っております。

○副議長（寺前尊文君） たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） しっかり検証していただきたいと思います。

スピーカーを直すとか、ただ大きくすればいいという問題ではなくて、要は周知していただくというところに力を入れていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

続きまして、画面を切りかえてください。（資料をモニターに映す）

幾つか御紹介させてください。こちらは各御家庭にも配られていると思いますが、防災タウンページ2019年保存版です。中をちょっと見ていきます。

この中で、先ほどおっしゃっていた避難所に対しての特設公衆電話というのがオレンジのマークです。そして緑のマークが公衆電話です。これに間違いないと思います。

続きまして、私のイメージしていたのは、ボックスタイプではなくて、こういう外にむき出し状態の公衆電話です。一応イメージの確認です。

私自身、特設公衆電話というのはどういうものかというのを、現場で確認させていただきました。これは実際、電話は置いてないんですね。回線だけがありまして、避難所になった場合、NTTなどが電話を持ってきてくれたり、その場にある電話をつなげるということで、避難所15カ所にあるということです。

ここで2019年版の防災タウンページの南芦屋浜をごらんいただきたいんですが、公衆電話が1つしかありません。そして、避難所となる場所がありませんので、特設公衆電話もない状況です。これは2019年版の状況、現在の状況ですのでお伝えいたします。

私がイメージしていた緊急電話は、このような明らかにわかるようなものです。実際にこれは、受話器をとるとすぐに事務所などどこかにつながるというものでした。これはイメージの確認です。

続きまして、関連して、お困りです課のホームページに緊急相談ダイヤルの一覧がございます。こういった警報に対しての受付先があるのかということを確認させていただきました。警察に24時間対応するような緊急電話というのがあるようです。

画面を戻してください。（資料の提示終了）

画面での説明をさきにさせていただきました。この中で幾つか御質問がございます。

実際、おっしゃってる特設公衆電話というのは、避難所に対する公衆電話ですよ。私は隔離された場所と言いました。

例えば、手元にスマートフォンがなくて、そういう公衆電話もなくて、避難所に行けない人がいざとなったときに電話する場所をふやしましょうという意味なんですが、この辺が、私の言ってる質問と対処の方法がちょっと違うように感じるんですが。

○副議長（寺前尊文君） 辻都市建設部長。

◎都市建設部長（辻正彦君） ちょっとたかおか議員がどういうシチュエーションのことをおっしゃられてるかというのは、完璧に理解はできないんですけれども、基本的に避難所には、早目に避難をしていただくということで、本当に緊急通報が必要な状態であれば、先に避難所に行っていただくということが必要ではないかなというふうに思っております。

それと、あと公衆電話なんですけれども、基本的に公衆電話というのはNTTが設置をしますので、市では設置をしておりませんので、そういう意味でちょっと難しいかなというふうに考えております。

○副議長（寺前尊文君） たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） では、緊急電話を改めてつくられたらどうですか。NTTさんではなくて、先ほ

ど私がお見せしたような電話をつくることも考えられるかと思うんです。対応先としては、先ほど示した警察の方に、直通電話のようにつながるものをイメージしてたんですが。

○副議長（寺前尊文君） 辻都市建設部長。

◎都市建設部長（辻正彦君） それをどういうシチュエーションで、どこへ置いていったらいいのかということと、市が設置する電話は優先的に鳴りませんので。全てを否定しているわけではないんですけども、ちょっとその状況が把握できませんので、そういうことです。

○副議長（寺前尊文君） たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） 困りましたね。このところを合わせておかないと、大事なことなんです。（「シチュエーションを」の声あり）

シチュエーションですよ。私としては、例えば、阪神・淡路大震災のときも、目と鼻の先で向こうに渡れないという状況がありました、そういう緊急のときに。

例えば、先ほどの南芦屋浜のことでお伺いしたいんですけど、よく言われるのが、橋が壊れてとかいうことで、隔離状態になったときに、携帯電話が繋がらないのに、南芦屋浜の方には公衆電話が1つしかない、そういう状況の場合に1つでいいのか。こういう状況を主にイメージしております。

○副議長（寺前尊文君） 辻都市建設部長。

◎都市建設部長（辻正彦君） 特設公衆電話は、市内15カ所に設置をされておりますが、今たかおか議員に言っていただきましたように、南芦屋浜にはないんです。そういう意味で、潮芦屋交流センターに設置していただくよう、NTTと交渉をしてみたいです。

○副議長（寺前尊文君） たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） そうですね。現在、避難所がないというアナウンスなんですよね。今後は増設を考えていただくということで、あすにでも震災が起こった場合、今だとお知らせがない状況なので、いつごろ、検討されてここに載ってくるんでしょうか。

○副議長（寺前尊文君） 辻都市建設部長。

◎都市建設部長（辻正彦君） 早急にNTTさんと協議をさせていただきます。

○副議長（寺前尊文君） たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） 防犯にかけてなんですけれども、あゆみ橋にそういう防犯ベルがあるということと、私のほうも調べさせていただきました。

周りの保護者の方に確認しましたが、そんなベルがあったのというような反応で、子どもがいたずらして押すから、触っちゃいけないよというふうに学校からは教えられているということなんですよね。

いざというときに、そういうものを子どもたちが使うかということ、ふだんから押してはいけないと教わってい

るものに対して、防犯として置いているからいいですということになるのかなと思うんです。これ10年前から置かれているんですけども、保護者の方も、そういう説明を学校では受けていない。これは教育長にお伺いしたいんですけども、ただ単に、ハード面を置いているだけで抑止力になっているのか。私も初めて知りました、あゆみ橋にそういう機能のものが置かれていたんだということ。この状態はどう思われますか。

○副議長（寺前尊文君） 北尾学校教育部長。

◎学校教育部長（北尾文孝君） 本来機能するべき役割を子どもたちが認識できていないということはいけないことだと思いますので、学校だよりとかで再度周知するなり、いたずらするから触っちゃいけないという指導はちょっとおかしいと思いますので、肝心なときにきちんと押すこと、いたずらはしちゃいけないと、そこは子どもたちにもきちんと指導をしていきたいと思います。

○副議長（寺前尊文君） たかおか議員。質問通告の段階では、答弁者として、教育長は入っておりませんので、教育委員会への質問というのは、極力差し控えてください。よろしくお願いします。

たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） 失礼いたしました。御答弁ありがとうございます。

そうですね、保護者というか大人に対しても、ああいうところに防犯の目的で置いてるのであれば、説明があってもいいのかと思って御質問をさせていただきました。

市の考えとしては、防犯カメラなどは、ばれないように、犯罪者に対してはそれがどこにあるかわからないというのが抑止力になるという考えなんですけれども、それとは別で、違う角度から見たときに、あそこに行けば防犯カメラがある、あそこに行けば誰かを呼べる、そういった誰が見てもわかるような防犯のスポットは、違う考えで言うと、そこに行けば犯罪者にしたら映ってしまうんですよね。そういったところは、逃げ込み場所として考えられるのではないかとということで、今回挙げさせてもらいました。

いつも一方の考えだけでお答えされるんですけど、もうちょっと違う角度で見たときに、こういったものはどうかというところを考えていただきたいなと思っております。

今回、こんなことがありました。小学校1年生の子が不審者の方に追いかけてられまして、建物の中に逃げ込んだんですね。ところが、男の子の姿は映ってたんですけども、後ろから追いかけている不審者の姿は映ってなかったということなんです。カメラに映ることをわかって追いかけてなかったのはわかりませんが、やはりそうやって逃げ込む場所まで追いかけてこない場合もあります。そういったところで、一旦すぐ逃げ込めて、すぐ知らされる場所。誰かがその場所に逃げ込んだときにベルが鳴ったら、みんながあそこで何かあって、不審者がいて誰かが呼んでるんだとわかるような場所、スポットとして一、二カ所ぐらいあってもいいかと思っておりますので、まだまだ柔軟な考えで、これから検討していただきたいと思います。

今回例えて、犬のマナーに関して挙げさせていただいたと思っていただきたいんですけども、私のイメージしてたものと合ってるかというところで、画面を切りかえてください。（資料をモニターに映す）

私のイメージしていた、犬の公衆トイレというのは、こういったおがくずがありまして、その中にふんを入れると土に返る。皆さんでここに捨ててくださいねというようなものを実際に置いているところがあったので、どうかと思って挙げさせていただきました。

これは海外です。しっかりと犬のふんのボックスなどを設置してます。特にヨーロッパなどは、これにより、ふんがなかなか捨てられてないということらしいです。ごみ袋をつけてるようなごみ箱もあります。手で触らないように、足で、ばねであくようなものもあります。

日本でもないか、私は探しました。大阪府八尾市久宝寺緑地で、実際にこの犬のトイレというのを使ったりし

ているんです。

これまでできてきたことはわかるんですけども、それで改善されなかったら1つでもいいんです、何か違うことをやっていただきたい。それで、結果を見て判断して、やっていますと大きな声で言えると思うんです。現在、本当にふんが多い、改善してほしいという声を私はたくさん聞いてます。ということは、改善されてないということなんですよ。

先ほどの御答弁を聞いてると、今現在対応しているからそれでいいですというふうにしかな聞こえなかったのですが、でも実際、市民の方はマナーを守られてない方に迷惑してるという事実があるということで、今後はもうちょっと違う角度からも検討をしていただきたいと思っています。

画面はこのままで。先ほど7点目の情報を集約できるシステムのところで出た、ためまっぷ。管理者はあしやNPOセンターさんがされているということで、私も見させてもらいました。これほとんど入ってないですね、今の状況は。

市民の方が提供してくださって、私が提案したのは、例えば自治会さんがされてるお祭りで、ほかの町の方にも来てほしい、そういったものとか、町のイベントに対してなんですけれども、まだ浸透されてないのかほとんど入ってない状況なんですけど、これに対しての進捗というか、どのような状況なのか、随時確認されているんでしょうか。(資料の提示終了)

○副議長（寺前尊文君） 川原企画部長。

◎企画部長（川原智夏君） NPOさんがされているので、随時の確認というのはしておりませんが、日によってここに出てくる情報というのも違ってございまして、御質問いただいた後に、私も数日見ておりましたけれども、日によっては、市内でやられるイベントなどの情報のチラシが複数枚にわたって入っていたということもございます。

ただ、議員のおっしゃっておられるように、浸透ということに関しましては、御存じない方が多いと思いますので、それについては周知を図ってまいりたいなと思っております。

○副議長（寺前尊文君） たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） ぜひとも、まだまだ知らない方がいらっしゃるので、民と民であるものを使っていってくださいと、市では改めてつくらないのであれば、しっかりと浸透させていっていただきたいと思います。

また画面を切りかえてください。(資料をモニターに映す)

芦屋市のホームページに、そういったものがないのかちょっと見てみましたら、イベント・講座情報という欄があるんですが、これはどういったものなのか。カレンダーで表示をすると、ここに一応イベントが入ってるんです。この時は数が少ないんです。これは一覧のほうで見た場合ですけども、これはどういった方がどのような形で載せてるものなんでしょうか。(資料の提示終了)

○副議長（寺前尊文君） 川原企画部長。

◎企画部長（川原智夏君） これは、市の広報国際交流課のほうで扱っておるものでございます。ですので、主には広報に載るようなもの、ルナ・ホールのイベントであったり、市が主催・共催をしておるようなものが、ここに載ってくるということでございます。イメージとしましては、広報あしやの一番後ろのイベントカレンダーのようなものというふうに、認識をしていただければ結構かと思っております。

○副議長（寺前尊文君） たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） そこに、市民の方からのこういうものを載せてほしいというものは、載せないということですか、それとも、今後はそういうことも検討していくということでしょうか。

○副議長（寺前尊文君） 川原企画部長。

◎企画部長（川原智夏君） 市の主催であったり共催であったりというものは載ってこようかと思えますけれども、市民の皆様が日々行われるようなものにつきましては、やはり先ほどの、ためまっぷ芦屋を御利用していただくのがよろしいかと思えます。

○副議長（寺前尊文君） たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） 先ほど企画部長は中村議員の御答弁のときに、必要とする情報を発信していきたいとおっしゃってたんですが、今私が提示してるものは必要な情報――市民の方は、自分たちのイベントを載せてもらって、それを見たい方に発信してほしいと思うんですけど。市としては、そこには手助けはしないということですか。

○副議長（寺前尊文君） 川原企画部長。

◎企画部長（川原智夏君） こちらは市のホームページに載せるものでございます。ですから、例えば、広報あしやであっても、全ての情報を載せるというものではございませんので、そのあたりで民間といいますか、ためまっぷのようにNPO法人さんがされるものと、それから市が行政情報として載せるもの、その部分の違いというのはおのずと出てくるかと思っております。

○副議長（寺前尊文君） たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） その選別が、私からするとどうしても何か中途半端な感じがするんです。実際こういうのがあるんだから、これを利用してもっと大きく幅を広げたらいいのになと思ったりもしますし、また、民間のためまっぷを使ってほしいといことで、市としてもこういうものを推奨するのであれば、今後はここにリンクさせたり――ここにというのはこの場所じゃなくてもいいですよ、また別のところ、ホームページのトップページでもいいですよ、そこにリンクさせるとか、そういうことは考えてないんでしょうか。

○副議長（寺前尊文君） 川原企画部長。

◎企画部長（川原智夏君） リンクについてはいろんなものがありますので、今後、それは調整を図っていきたいと思っております。

ただ、このためまっぷについては、もちろん広報等でも今後周知を図ってまいりたいと思っておりますし、また、わくわく子育てアプリがございましたので、そういったいろんなところを活用しながら、周知については図ってまいりたいというふうに考えております。

○副議長（寺前尊文君） たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） やっぱりこれもお声が多い内容なんですね、市内のそういうイベント情報が知れたらいいなという。そこをちょっと酌み取っていただいて、今後こういうものがあるんですと支援していくのであれば、そこもホームページに掲載するなどということも考えていただきたいと思います。

8点目、「みんなの家」です。これは、例えば市民の方がこういう居場所づくりに場所を提供してほしいということに対して、そういうお考えはあるかということでの御質問で、回答をちょっともう一度お聞きしたいんですけど。

旧精道幼稚園に関しては、例えで話した内容であって、実際そういう方針があるのかということ、もう一度お伺いしたいです。

○副議長（寺前尊文君） ただいまの質問に答弁はできますか。

安達福祉部長。

◎福祉部長（安達昌宏君） 福祉のほうでは居場所づくりというのを今進めております。今も市内で数カ所ございますけれども、そういう居場所づくりの御要望がございましたら、幾らかの助成制度もございますので、そういう取り組みは今、進めているところでございます。

○副議長（寺前尊文君） たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） 市民の皆様の中でできることというのと、人を集めて、こういうものを協働でやっていこうというところまで、どうしても場所のところではつまずくんです。どこでやろうかと。

そういったときに、市が公共施設なりを、この時間は提供します、そういうようなちょっとした協働の部分を見せてもらえるのかなと思っているんですが。

○副議長（寺前尊文君） 川原企画部長。

◎企画部長（川原智夏君） 市民活動という部分で申し上げますと、市内でいろいろな課題に取り組んだりという活動をなさっておられる団体があるとお聞きしております。

市民活動センターが、まずそういった活動の支援に当たっております。場所の提供というのはどこまでできるかというのはわかりませんが、市民活動センターのほうでもいろんな情報を集めておまして提供しておりますので、御利用いただければと思っております。

○副議長（寺前尊文君） たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） 交流センターとかは毎回決まって行けるわけじゃないですね。確実にそこに人が集まれる、毎日のように借りることなんてできないですね。決まった日に、予約して、あいてるときに行くようなイメージですね。

○副議長（寺前尊文君） 川原企画部長。

◎企画部長（川原智夏君） 気軽に集まれる場所をとということになりますと、地域の中でやはりいろんな知恵を出し合っただけだと思います。

中には御自宅を、家開きという形で提供されている方もあるとお聞きしておりますので、そういういろんな資源を使いながら、やっていけるものではないかと思っております。

○副議長（寺前尊文君） たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） このところは、ちょっと私納得できていないので、もっと深く掘り下げて御説明の時間があると思いますので、一旦飛ばします。

続きまして、画面を切りかえてください。（資料をモニターに映す）

9点目、職住近接です。

これは、湖西市の職員さんが考えられて、中からこういうものをつくられたということです。これ見たときやっぱり……。

画面戻してください。（資料の提示終了）

自信を持ってこれを出されてたんです。市長の方針がもうそこを向いている、だから職員も自信を持ってそこに行けるんだ、自分がつくったもの、これは自信を持って出せるんだ、なんかそういうふうな雰囲気ですごく漂ってたんですね。やっぱりそれを見ると、旗振りは大事なのかなというところで、市長からは、職住近接についてはお考えはないという御答弁でした。

ちょっと副市長にお伺いしたいんです。

私、この場で市長がどこにお住まいかはお尋ねしません。市内か市外かわかりませんが、もし、いとう市長が義務づけ—採用時に市内の方という、幹部の方は市内でないといけないう、防災の観点からも身近にいてほしい、地域に密着してほしい、そういう方針を出されたら、万が一そうしたときに、副市長はどうお答えになりますか。

○副議長（寺前尊文君） 佐藤副市長。

◎副市長（佐藤徳治君） 公務員試験というのは、広く人材を募る必要がございますので、エリアを限定した採用というのは好ましくないというふうに思っております。

防災の観点を申されるのであれば、重ね重ね御答弁をさせていただいているように、両隣に住む職員が30分以内に5割方駆けつけることができますし、阪神・淡路大震災のときにも、私は40分で当日に到着させていただいておりますので、そういった志こそが、芦屋市に勤めたい、市外であろうが市内であろうが勤めたいと思う者の根本に存在してはいるのではないかとこのように思っております。

○副議長（寺前尊文君） たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） また、苦渋の選択をお伺いすることになるかもしれませんが、多くの市民がそれを望みました、やはり幹部の方に近くに来てほしいと。40分で駆けつけるにしてもその電車が—電車かわかりませんが、道が閉鎖されました。来られないので副市長がいません、ほかの職員はあたふたします。どうしますかというときに、やっぱり副市長がそばにいてくれたら、そばにというか芦屋市にいてくれたらよかったなということになったとします。やっぱり幹部が示す方向で職員の動きも大きく変わるんですね。

それでそのときに—わかりませんよ、どんな事情で、今の話から聞くと市外かなと推測しているんですけど、どんな理由かわかりません。例えば御家族と市民、どっちをとりますか。やっぱりその辺は幹部のトップの副市長になると、てんびんにつけないといけないうところになってくると思うんですが。

○副議長（寺前尊文君）　いとう市長。

◎市長（いとうまい君）　済みません、職員の住まいのところなんですけれども、市民の方から、芦屋市内に住んでないから本気になってないんじゃないかという批判の声があるのは存じておりますけれども、芦屋市の職員はそんなことは全くなくて、自分事として常に仕事をされていると思います。

先ほど副市長も申しましたけれども、幹部でなかったときでさえ、彼は家庭ではなくて芦屋市を選んだわけです。そうなりますと、やっぱり幹部になると、もうそれについて選択をするような幹部はいないと思います。

もう1点、防災のところで言いますと、例えばみんなが同じところに住んでいると、みんなが同じ被害者になるんです。例えばちょっと遠くにいると、自分のおうちは全然大丈夫だということもありますので、リスクの分散という考え方もあります。それともう1つには、広くーちょっとあっちに行ったりこっちに行ったりになりますけど、施策についても芦屋市内に住んでいると芦屋のことしかわからなくなりますよね。市外に住んでいるからこそ、自分のまちではこの施策をやっている、芦屋市との違いはこうなんだ。そしたら芦屋市に帰ったときに、じゃこの施策が足りないから、芦屋市でやってみようとか、ほかはこういうやり方をしているのでやってみようとかいうこともできるのだと思います。

ですので芦屋に住んでいるのが全てオーケーというわけではないと思っておりますので、御理解いただきたいと思えます。

○副議長（寺前尊文君）　たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君）　市長、御丁寧な御答弁をありがとうございます。

私は一人の意見でここに立っているわけではないんです。やはりそういう声が大きいというのと、他市のこういう事例もあったりするんです。

それで市長がおっしゃったことを今後市民の方にも伝えていっていただくということは、御尽力いただかないといけないなと思えますので、どうぞよろしく願いいたします。

今回のテーマで一番私が言いたかったのは10点目なんです。やっぱりネーミングは大事なと思うんです。画面を切りかえてください。（資料をモニターに映す）

ここに「寄せられた『市民の皆さんの声』』というのがあります。どういったものが御意見としてあるのかなと見させていただいたときに、やっぱり多いのが何々をしてほしいというようなことで、今すぐ改善してほしいというのは道路のこととか街灯、公園内の樹木のこととかが多い。今回の防災無線が聞き取れないとかいうのもあります。これは平成29年と平成30年のデータなんですけど。

例えばこれは担当課に言えばいい、つなげればいいような内容だと思うんです。じゃあこの内容が総合受付から担当課さんに行くのと、お困りです課から担当課さんに行くのとでは、イメージとして私はちょっと違うなと思っていて、「お困りです課、えっ、何を怒られるの、何かしたのかな」と構えたりしないかなと思うんです。その辺はどうですか。

○副議長（寺前尊文君）　川原企画部長。

◎企画部長（川原智夏君）　御心配いただきありがとうございます。

お困りです課はネーミングこそそういう名前になっておりますけれども、お困り事だけではなく、いろいろな御提案等もいただいておりますので、職員はよくその辺は理解しておりますので、中身のほうをまずしっかり聞くと。どこの課からかかってきたからというイメージを持ってではなく、中身の話を聞かせていただいているというような状況でございます。

○副議長（寺前尊文君） たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） 部長は、職員の声を拾ったと言われましたけど、本当に職員はそう思っているのでしょうか。実際に聞かれたのでしょうか。

また、私はお困りです課は、女性が何でも気軽に相談しやすいというのでつくられた課ということで、女性の受付の方がいらっしゃると思うんですけど、常に女性の方が行っているわけではなくて、いけば声の大きい方が行くようなイメージで、女性の受付の方が頭を下げて、済みませんと言っているようなイメージだったんですが、部長は本当に、そのあたりの職員の気持ちというのを理解されているのでしょうか。

○副議長（寺前尊文君） 川原企画部長。

◎企画部長（川原智夏君） 私自身もお困りです課から電話を受けて処理をしていた時代というのがございますので、それは実体験というので持っています。ただ受け取り方というのは職員それぞれの部分もあろうかと思っております。

お困りです課の職員が常日ごろ謝っているようなイメージがあるのかもしれませんが、確かに強い意見をお持ちの方も中にはいらっしゃいますけれども、そのような市民の方ばかりではありませんので、いろいろ言われたその言葉の強さには、それぞれの背景があるということを理解しながらお話を聞かせていただいているところです。

○副議長（寺前尊文君） たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） では別の角度で。パブコメとかは当局が提案されたテーマに基づいて案を出してもらおうという感じですよ。それで、お困りです課は幅広く、市民の方から提案してもらおうという、矢印の方向性としたらそういう感じですよ。

それで、そういうアイデアを引き出すというところはお困りです課の目的として入っているんですか。

○副議長（寺前尊文君） 川原企画部長。

◎企画部長（川原智夏君） アイデアを引き出すというところが大きな目的ではないんですけども、お話をしていく中で、こちらからいろいろと御提案もさせていただいております。

その中では、解決策ということに向かっての案が出てくる場合もあろうかと思っております。

○副議長（寺前尊文君） たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） では、うまくお話の中でアイデアを引き出しているということですよ。

それで例えばそのアイデアが、その方が言ったことが実現されたということに対して、大々的に見える化することはないんですか。

○副議長（寺前尊文君） 川原企画部長。

◎企画部長（川原智夏君） 先ほど御紹介もありましたように、年間を通じてなんですけれども、いただいた御

意見の中で多いものについて御紹介をして、それについてどのように対応したかということ、報告させていただいているという状況です。

○副議長（寺前尊文君） たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） 今のだとわかりにくい気がするんです。一個一個ではアイデア募集みたいなのをよくされているのかもしれないですけど、こっちから募集をして、受けるという感じですね。

いろいろ思われていることー私が一番最初の質問のところで言ったのは、いろいろ意見を言いやすくしてほしい、それを発掘してほしいということなんです。待っていて、何というか……。

○副議長（寺前尊文君） 川原企画部長。

◎企画部長（川原智夏君） 御質問の趣旨が広く意見を市民の皆さんから言っていただけるような環境といえますか、その課の設定をしていただきたいということだと御理解したんですけども、お困りです課については、もう12年以上（「16年以上」に発言訂正あり）設置しております。その中で、我々はやはりまず迷ったらこちらに来てほしいと思っております。

特に、原課には直接言いにくいことでも、お困りです課であれば1つ介することもできますので、そういった言いやすさもあるのではないかと考えております。

決してその意見だけを言うような窓口ではなく、どんなことでも寄せていただきたいと思っておりますので、もしそういうお困り事だけを届けるような課と思われている方がおられるのであれば、我々もまた周知を図ってまいりたいと考えております。

○副議長（寺前尊文君） たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） 一度ついたイメージはなかなかとれにくいと思うんです。私はそのイメージを払拭するためには、12年設置してきて、それでこういうものだから、機能しているから、お困りです課を守り続けるというのもしいいかもしれません。

でも、やり始めたときはそういう目的だったとしても、いろいろやっているうちに改善点は出てくると思うんですけど、それを、いや、これはうまく機能しているからこれでいいんだと言っていて、このイメージを払拭するというところは……改善されるのでしょうか。

○副議長（寺前尊文君） 川原企画部長。

◎企画部長（川原智夏君） どのようなイメージになっているのか、いろんなイメージがあろうかと思えますけれども、我々は本当に、お困りです課は何か困ったこと以外でも、いろんなことを寄せていただく市の広聴の窓口部門ということで捉えております。

ですので、もしそういうお話をお耳にされましたら、お困りです課に行けばいいよと声をかけていただいて。我々が発信するものと、どうしても行政の発信ということになるんですけども、口コミとか、お話によって広がっていくものというのが、やはりイメージにつながってまいりと思っておりますので、ぜひそういった形で広げていただけたら非常にありがたいなと思っております。

○副議長（寺前尊文君） たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） 何でも相談もいいんですけど、せっかく市長もかわりまして、イメージをガラッと変えるものとして、新たに何か。新たな課をつくるなり、お困りです課はそのまま相談室として置くにしても、こういうアイデアを引き出すような、一本化する課というのは、私的にはお困りです課では不十分だなと思っています。

それで新たに、そのイメージを払拭するために、せっかく市長もかわったということで、このタイミングというのは一つのきっかけにもなるかなと思ってるんですが。

○副議長（寺前尊文君） いとう市長。

◎市長（いとうまい君） いろいろと御心配いただきましてありがとうございます。

私としましては、お困りです課というのは本当に気軽に、「何かお困りですか、お手伝いしますよ」というようなイメージを持っておりました。

それで私が市長になりましたときに、ただ単にどうですかと言うだけじゃなくて、もっとその先—この事柄で困っていると、きっとこっちの事柄でも困るはずなので、じゃあ先に、こういうことにも困るかもしれないので、これはどうですかみたいな提案ができるような、コンシェルジュっぽい御相談を心がけてくださいということをお願いいたしております。

たかおか議員がおっしゃる、アイデアを集めるところに関しましては、タウンミーティングやランチミーティングなどで、その御意見をくださいというような試みをさせていただいているところです。

これは行政に関してだけなんですけども、逆に議員さんは議員さんで、市民の代表で出てきてらっしゃいますので、議員さんも市民の方のいろんなお声を吸い上げて、議会の場でも質問していただいたりとか、御提案していただけたらありがたいなと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

○副議長（寺前尊文君） たかおか議員。

◆11番（たかおか知子君） 私も初めに言いましたとおり、今までされてきたことを全否定しているわけではなく、これでいいと思わずずっとやっていることは、意外と市民の皆様からすると、これはちょっとおかしいんじゃないかということがあるんです。

そういうときは一度立ちどまっていただいて、今まで構築されてきたことであっても、ちょっとやっぱりお耳に入ってきてほしいなということで挙げさせていただきました。

実際、本当にあるんです。お困りです課に対して、私が今まで話してきた内容の御意見というのがありました。それでちょっと挙げさせていただきました。

お時間ありませんのでまとめますと、以上、1から9個の案は、市民の皆様からいただいた御意見をもとに発案した内容であり、まずはアイデアを出してもらえようような窓口の設置が必要であると、10点目の案を考えました。

今後は市民の皆様のお明るい声がたくさん届き、ポジティブな気持ちで市政にかかわる体制を整え、当局にも、「それ、いいですね」とわくわくしてもらえることを願いながら、質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○副議長（寺前尊文君） 川原企画部長。

◎企画部長（川原智夏君） 申しわけありません、1点、私の答弁の中で訂正させていただきます。

お困りです課の設置年数なんですが、私は「12年以上」と言いましたが、「16年以上」の誤りでございました。大変失礼いたしました。